

の増大する不利益を免れないのである。

凡そ人間が天から與へられた地球上の物資は限りがある。一人が是を私有すれば其人は富んで結構だけれども、他の多数の人は困るのである。空た深く考へて見れば資本家の富といふものは資本家がつたのでなく多数の労働者の生産したものであり、また世上の多数人の需要があるから價値があるのである。私は是等の點を考へて資本家の反省を希望せざるを得ない。

## 二 今日の労働は苦痛なり

労働は本来、快樂である。然るに今日では労働者の労働は苦痛に變じた。

コールといふ英國の學者は労働問題の中心點は労働者が貧乏だといふ問題でなく労働者が奴隸であるといふ點に存すると言つた。誠に今日の貸銀制度は昔の奴隸を思はしむるものである。諸君が如何に激しい労働をしても得る處は貸銀に止るので

ある。貸銀から財産を作り上げることは出来ない。貸銀に依つて諸君の生活を豊かにし、諸君の人格を完成し、諸君の子弟を充分に教育することは出来ない。如何に労働しても他人を肥やすにすぎぬ。諸君はまたいつ失職の憂目に逢ふかも知れない。かくの如き労働制度の下に於て労働の快樂を望むことは無理である。

## 三 歴史的習慣破壊せらる

昔の坑夫は自治及相互扶助の精神の下に大當番や奉願帳などの立派な慣習を作つてゐた。然るに其れは今日、資本家の手に依つて破壊せられつゝある。かやうな制度があつては、資本家は坑夫を思ふやうにすることが出来る。既に九州地方には大當番の制度は全く破壊され、翼をもがれた坑夫は飛び立つことが出来る有様である。私は此有様に對して慷慨の情を禁じ得ぬ。坑夫諸君は自己階級の立派な習慣の破壊することを防ぎせねばならぬ。